

自由論題報告

フィンテックがリテール証券業に与える影響について

小林陽介（日本証券経済研究所）

近年、フィンテック（FinTech）の動向が注目を集めている。周知のようにフィンテックとは、金融（Finance）と技術（Technology）をかけた造語であり、特にベンチャー企業による革新的な金融サービスの提供を指すことが多い。その範囲は、送金・決済、預金、融資・貸出、投資、資金調達、情報管理、業務支援、保険、仮想通貨などの金融の幅広い領域に及んでいる。証券業との関連でも、クラウドファンディングやロボ・アドバイザーをはじめ、スマートフォンでのサービス提供に特化したモバイル証券、ソーシャル・ネットワーク内で投資情報を共有するソーシャル・トレーディング、分散型台帳技術の証券取引への適用など多くの関連分野が存在し、今後どのような影響を証券業に与えるのかが関心の的となっている。

一方、情報通信技術と金融業ないし証券業との融合は、現在のフィンテック以前にもしばしば見られてきた。とりわけ 1990 年代後半以降のインターネットの普及を背景として急速に拡大したネット証券取引は、金融と IT が融合する先駆的な取り組み事例として理解され、しばしばフィンテック 1.0 と呼ばれることがある。我が国の場合、証券会社の免許制から登録制への移行と株式売買委託手数料の自由化とがこの流れに合わさったことで新規参入の増加と手数料の価格破壊が進み、ネット証券と呼ばれる新たな業態が登場した。このようなネット証券登場の経験は、今後のフィンテックが証券業に与える影響を検討する際にも参考になる部分が多いように思われる。

そこで本報告では、まず 1990 年代後半以降台頭したネット証券の特徴について、価格・商品・サービス等の側面から検討し、これが証券業にもたらした影響を整理したい。続いて、特にリテール証券分野に関連するフ

インテック・サービスを取り上げ、その特徴をネット証券の事例との比較から明らかにしたい。最後に、フィンテックがリテール証券業に与える影響について、可能な範囲での展望を試みたい。